

奈良県の取組の財産を学校で活かしていくために

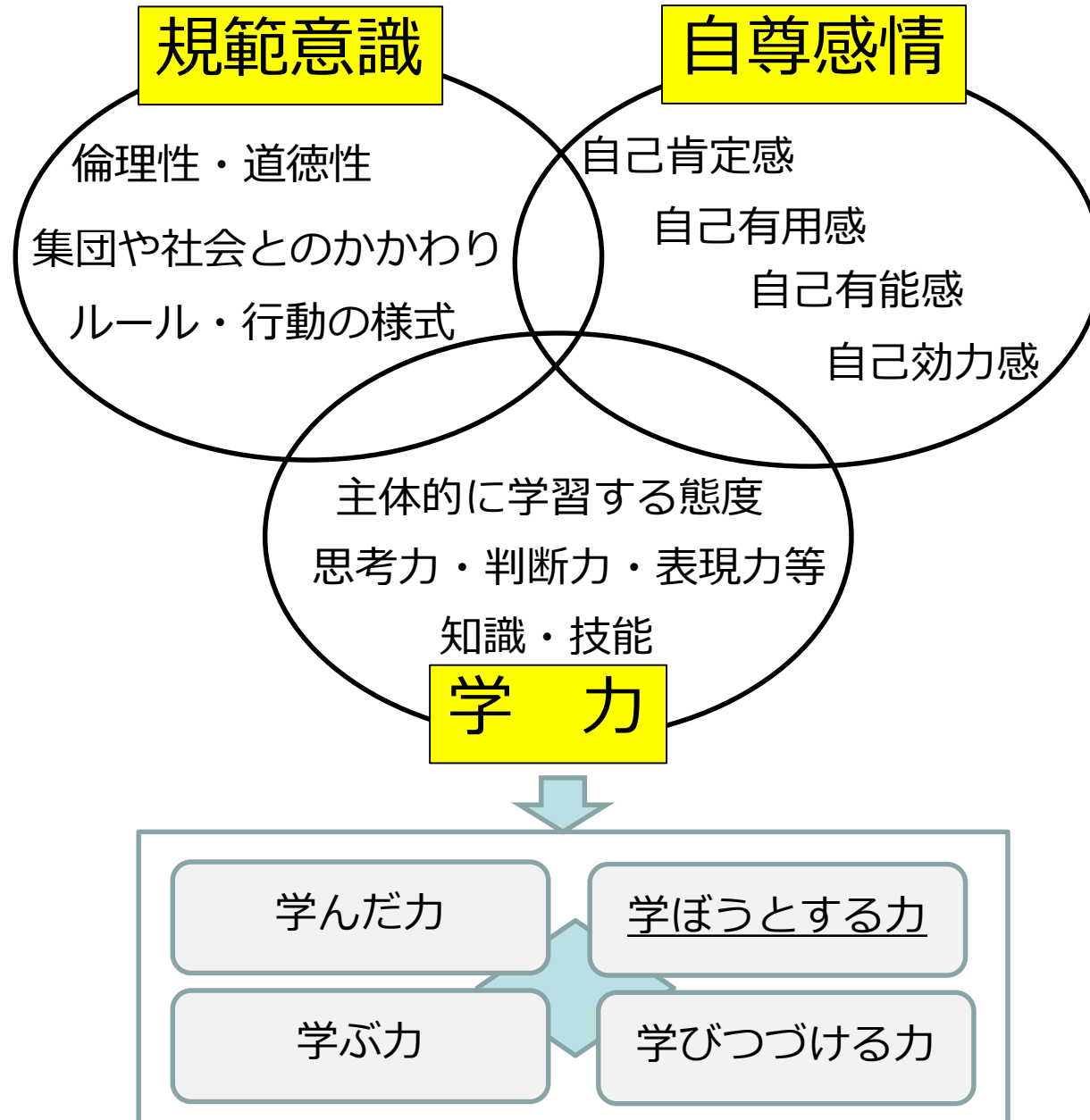
—全国及び奈良県学力・学習状況調査の調査結果の活用および奈良県の学校での取組の財産から—

小柳和喜雄（奈良教育大学）

oyanagi@nara-edu.ac.jp

(2019.2.15)

奈良県で過去見られた3つの相関と現在



学力向上の取組のあゆみ

学力向上アクションプラン

学力向上フロンティアスクール

「教材の開発」「指導方法体制の工夫」「指導と評価の一体化」→モデル開発

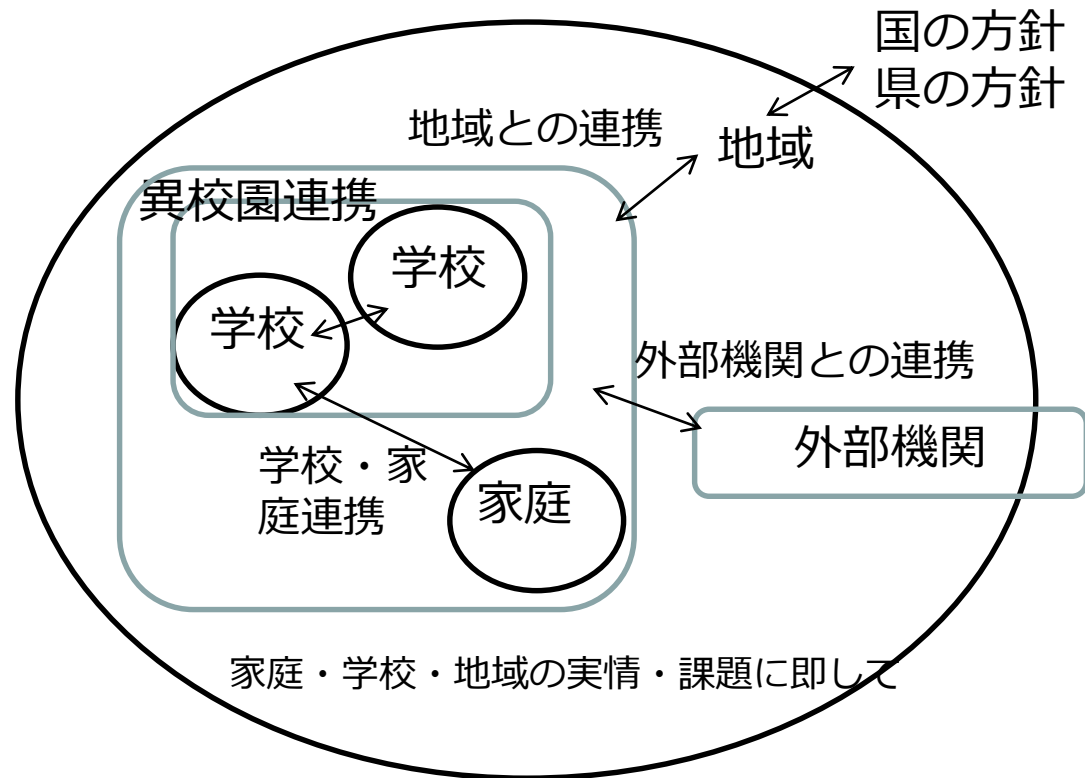
学力向上拠点形成事業

「生活習慣・学習習慣」「思考・判断・表現」→拠点形成・普及

学力向上実践研究推進

「学校・地域ベース」「新学習指導要領への対応」→普及促進

学習指導要領に沿った取組の効果検証

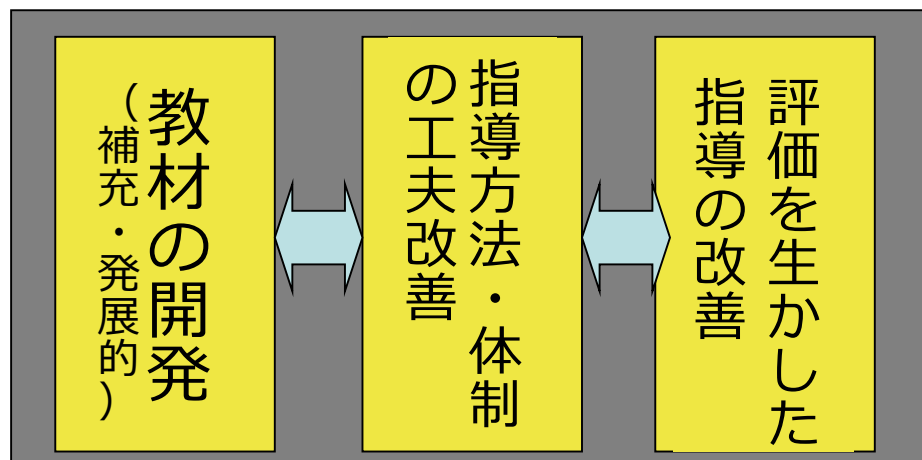


学力・学習状況調査等を活かした取組改善

「養成」「採用」「研修」の効果的な連携

学力向上への取り組みモデル ーフロンティアスクールの取組の場合ー (平成14年～16年)

児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導



確かな学力

成果（フロンティア事業14年度から16年度の取組のまとめ参照：奈良県）

| | 教材の開発 | 指導方法・体制の工夫 | 評価を生かした指導 |
|----------|--|---|---|
| 取り組んだ学校数 | 小学校3校 | 小学校8校 中学校8校 | 小学校2校 |
| 取り組まれた教科 | 国語、理科 算数 | 算数、国語、 数学、理科、英語、選択教科 | 国語、算数 |
| 取り組みの要旨 | <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握と目標分析に基づく教材開発 ・地域素材の教材化 ・単元開発 | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指・習熟度別の指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・学力定着方法の工夫 ・わかる授業の工夫 ・不得意の克服、意欲喚起 ・課題分析に基づく教育方法の工夫 ・教科担任の工夫 ・コミュニケーション能力育成に基づく課題探求 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオで自己評価能力を高める ・評価規準と照らし合わせて見取り評価を行い学習の実現状況を把握する ・振り返りシートを生かした指導 |

現状調査の結果を受けて

教育課程実施状況の結果

国際的な学力調査の結果

各学校の課題と取り組む方向性を明確にして

学習習慣の定着

学習意欲の向上

個に応じた指導

思考力・判断力・表現力の育成

指導方法・教材等の工夫

教科担任制

人・施設・団体との連携

教育課程の工夫・改善

「確かな学力」の向上のための実践研究

通じて

成果発表会・研修会等の開催

実践事例集の作成

インターネットによる情報提供

向かう

教員の指導力向上

研究情報の共有化

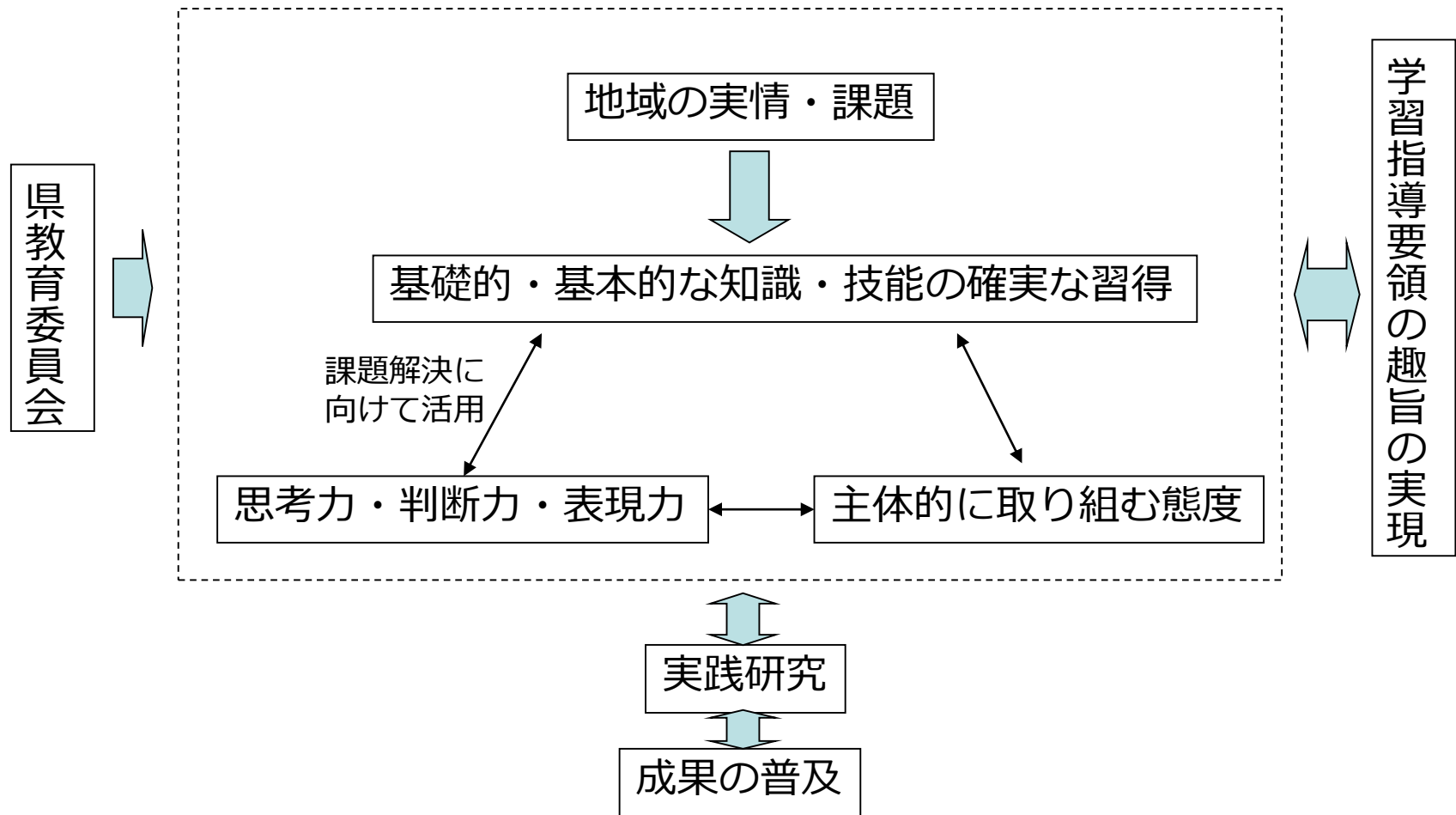
成果の普及

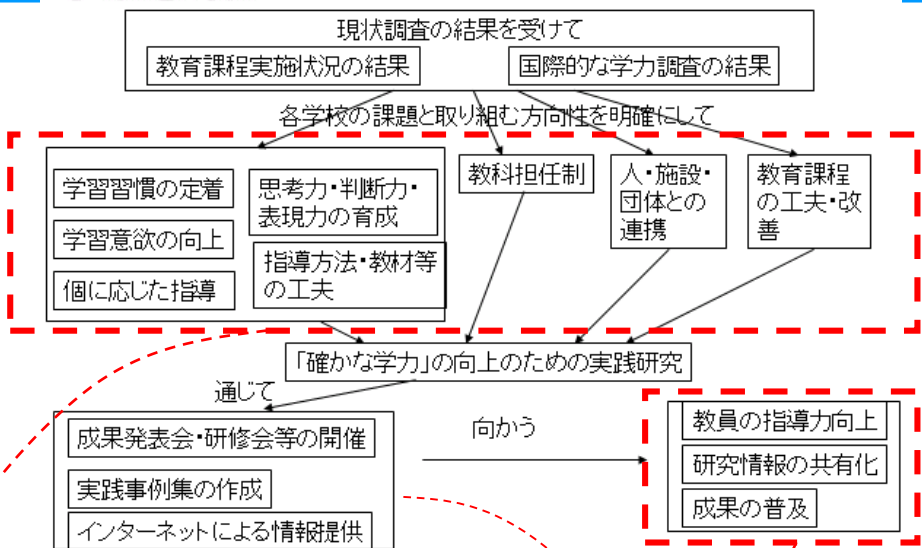
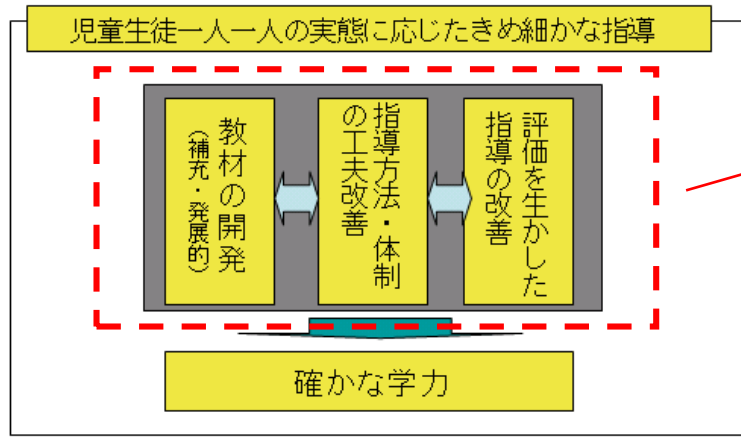
得られた成果

- 基本的な生活習慣確立の取組方法（東市）
- 学ぶ意欲，学び続ける力，自己学習力，自己成長の振り返りへの取組方法（東市，若草，阪合部，平谷）
- 基礎学力定着に向けた取組方法（東市，大安寺西，三笠，若草，阪合部）
- 授業研究によるわかる授業，できる授業への取組方法（東市，大安寺西，三笠，若草，阪合部）
- 個別指導，特定の状況にある子どもに焦点を当てた取組方法（東市，三笠，若草，曾爾）
- 思考力・判断力・表現力・問題解決力育成，将来への見通しへの取組方法（大安寺西，三笠，阪合部，曾爾，平谷）
- 調査結果を指導の改善生かす取組方法（曾爾，平谷）
- 組織的取り組みを通じた学校の教育力向上の取組方法（東市，若草）

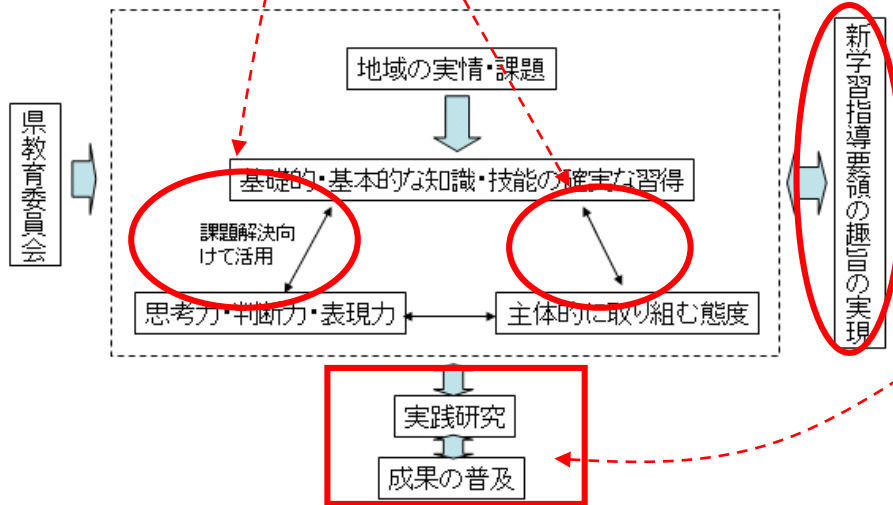
- 参照：奈良県教育委員会『平成17～19年度 確かな学力を育成するために』

学力向上実践研究推進事業 (平成20年から22年)





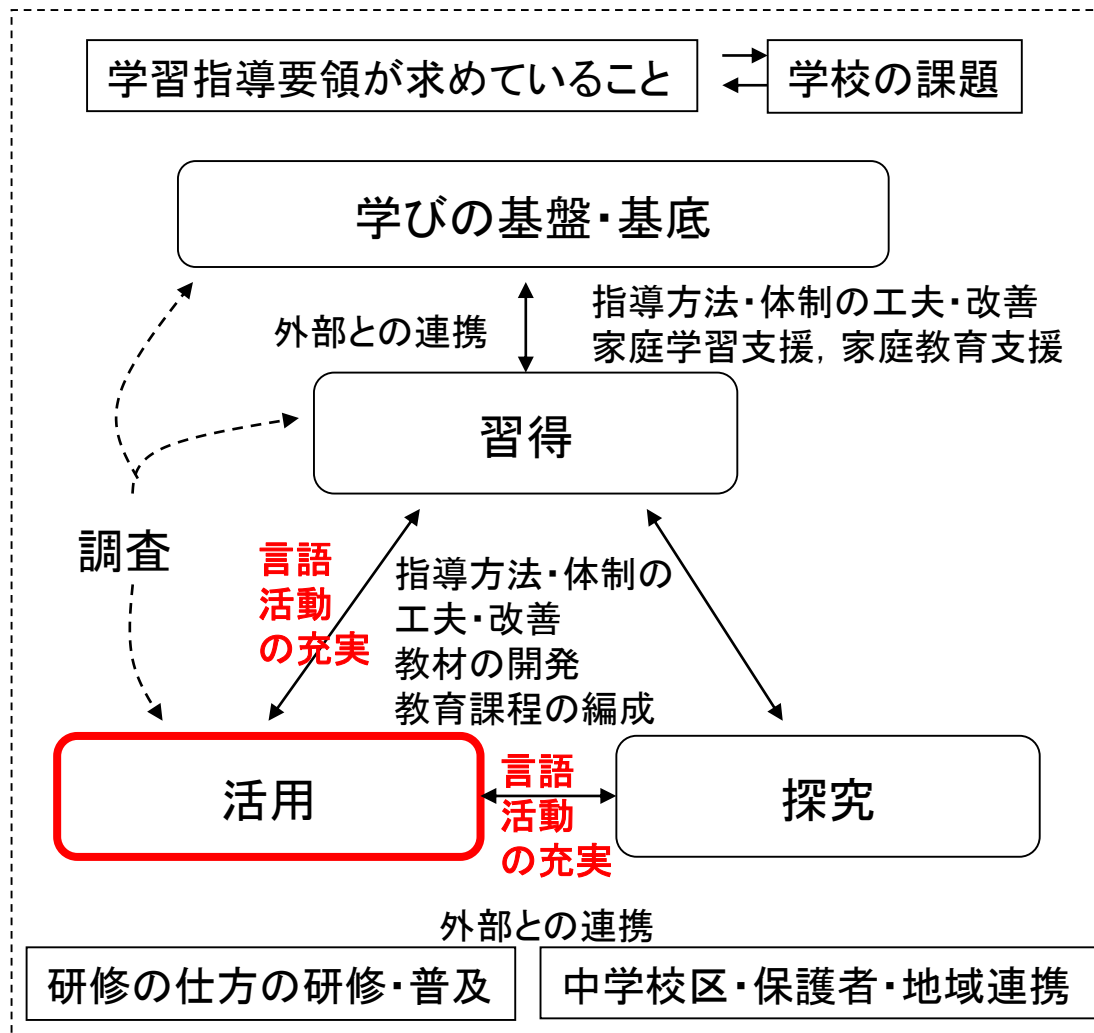
学力向上実践研究推進事業のねらい



「習得」「活用」「探究」の試み

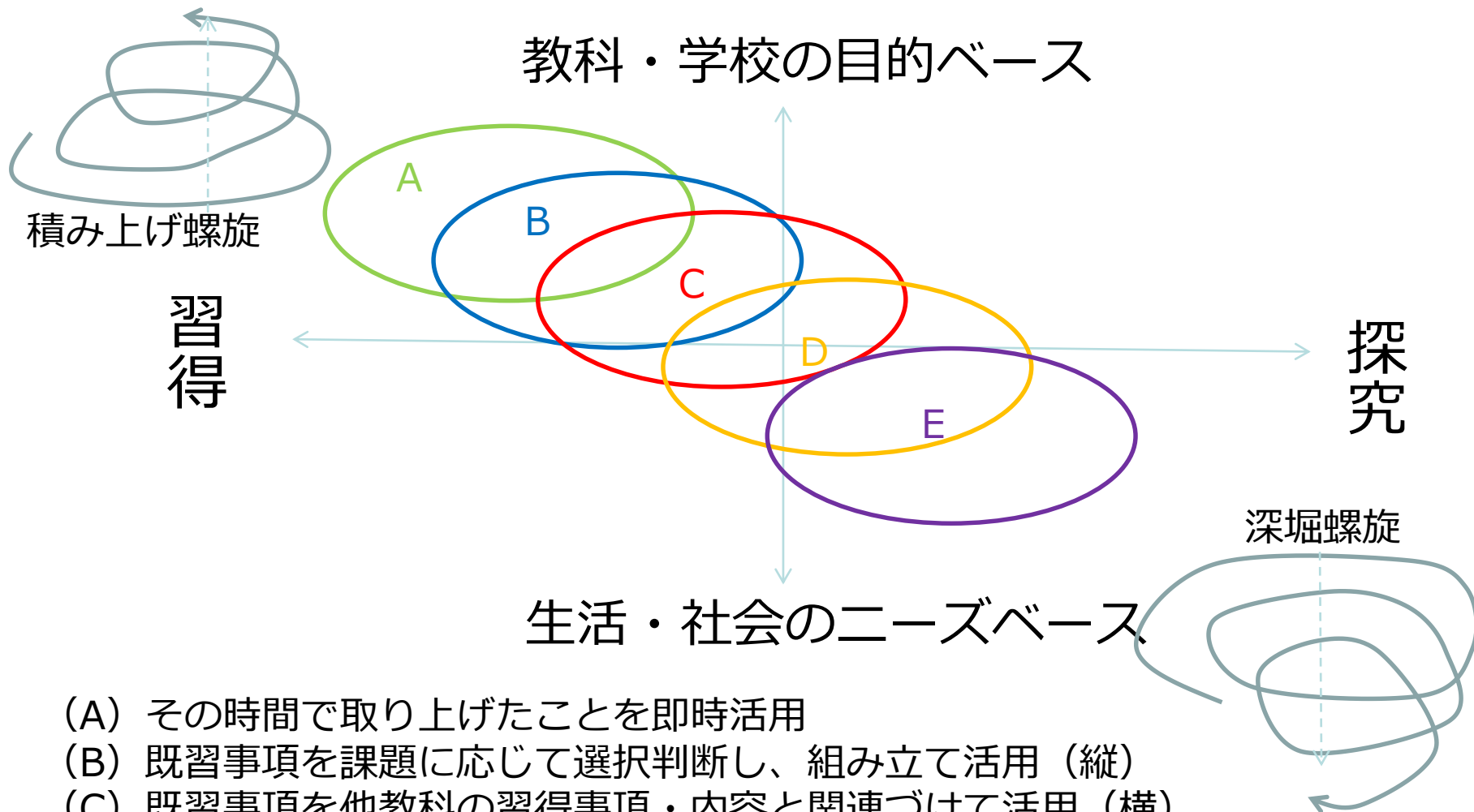
学力向上等の取り組みの課題となったこと

- 現行学習指導要領で期待されている3つの学力とその関係
 - 「習得」「活用」「探究」
- 確かな力を子どもに付けていくためには子どもの発達を考慮した計画的・組織的な言語活動の充実を考えることが重要なキーとなる



習得・活用・探究の関係

教科・学校の目的ベース



積み上げ螺旋

習得

探究

深堀螺旋

生活・社会のニーズベース

- (A) その時間で取り上げたことを即時活用
- (B) 既習事項を課題に応じて選択判断し、組み立て活用（縦）
- (C) 既習事項を他教科の習得事項・内容と関連づけて活用（横）
- (D) 生活場面等を取り上げ、既習事項を問題解決に向けて活用
- (E) 社会的実践に参加し、そこでの課題解決の中で既習事項を活用

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

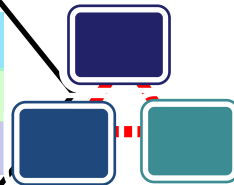
学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

新学習指導要領で学校に期待されている子供に培いたい資質・能力とそれに向けた教育課程編成

- これからの時代に求められる資質・能力を子供たちに育むために、**校種を越えて共通に**
 - 資質・能力の3つの柱（枠組み）
 - 学校種間の教科カリキュラム関連をより意識した取組（**縦糸：各教科単元のつながり**）、
 - 教科等を越えた全ての学習の基盤
 - 教科横断的取組（**横糸：いわゆる汎用的な力の育成を意識したつながり**）
 - 学校や地域の特性
 - 特色となる独自の取組（**斜糸、模様糸：選択と集中による取組**） → 学習意欲をもたすには重要
- 学校段階間の繋がりを意識した教育課程編成、カリキュラム・マネジメント等が期待されている。

(例) 中学校区による特色あるカリキュラム

3 学年
しばづけをつくろう
〇〇の地域を調べてみよう

4 学年 1 / 2 成人式
水について
しばづけをつくろ

5 学年
〇〇ライスNO.1
つながろう 〇〇

6 学年
〇〇探究
発見旅行

中1
〇〇探究について
ファイナンスパーク
収穫祭準備
職業調べ

中2
チャレンジ体験
進路について考える
修学旅行に向けて

中3
修学旅行
〇〇宣言
夢を語る
卒業に向けて

協同・協働して取り組む
力

熟達したコミュニケー
ション力

学習のためにメディアを選
択し、それを活用できる力

自律的・自己管理能力

現実世界の問題解決と革
新へ挑む力

知識創造できる力

おもいやりをもち、自ら汗のかける子
科学的思考のできる子
コミュニケーション力を発揮できる子

地域の背景、文化、状況分析（歩み、今）

その他要因分析（社会・経済・環境の変化）

子供の状況分析（これまで、今）

情報収集と分析の精度を上げる。→
（例）学習意欲には何が影響しているか

課題意識

課題相互に関わりはあるか、相関関係、因果関係はあるのか

目的意識

課題解決のために何をすることが必要なのか。
何をを目指すのか。

取組の焦点化

現在行われている取組と課題分析から必要な取組の関係をみる

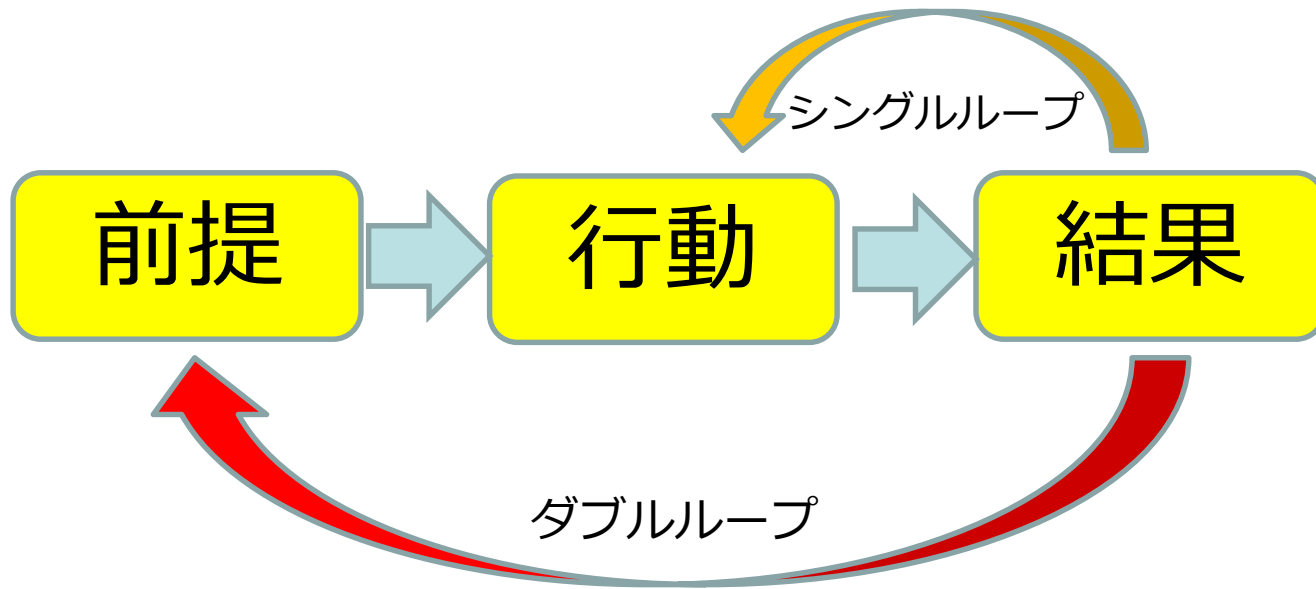
取組遂行に必要なことの明確化

どの組織で、何から行うのか（何を中心に行うのか）、全体計画の視覚化

成果の評価だけでなく取組の評価も

学校での取組進めていく際に

PD_cA → PDCA



PDCA

様々に行っている取組の何が重要なのか、何を外してはいけないのか、あらためて見つめる「取組の評価」

スタディ・ログ(学習の履歴:
テスト、調査、作文、作品、レポート、プレゼン等)

学力・学習状況調査

(SP表含む) など

ポートフォリオ・質問紙

学習情報と校務情報

指導改善
に活かす
リソー
ス・道具

学習の評価
(成果の評価)
(Assessment of
Learning)

指導に活かす

①

改善に活かす

学習のための評価
(取組の評価)
(Assessment for
Learning)

情報を見る
目を磨く

学習としての評価
(子供自身・教員自身
の評価力をつける)
(Assessment as
Learning)

アセスメント・リテラシー

形成的評価・
フィードバック情報
の提供方法を磨く

③

②

学校での取組を進めていくために 組織的な取組に向けての計画と評価

学校名：

研究課題：

目的：

昨年までの研究：
<成果>

・
・
・

A 子供支援の現状の課題

●
●
●

手法・活動・教材

1.

2.

C
評価方法

D 活動後の状況

○
○
○

B 職員支援の現状

●
●
●

支援の方法・道具・体制

1.

2.

E 職員支援の成果

○
○
○